

## 第4回UXプロジェクト計画策定会議 議事概要

【日 時】令和4年（2022年）3月10日（木）17時00分～19時00分

【場 所】ホテル熊本テルサ3階 たい樹

【出席者（敬称略）】

<委 員>

池野 文昭 委員（スタンフォード大学 研究者）

川畑 健二 委員（九州電力株式会社 執行役員熊本支店長）

慶児 幸秀 委員（熊本県企業誘致連絡協議会 会長）

後藤 芳一 委員（一般財団法人機械振興協会 副会長）※

新原 昇平 委員（熊本国際空港株式会社 代表取締役社長）

田中 稔彦 委員（一般社団法人熊本県工業連合会 代表理事会長）

富澤 一仁 委員（国立大学法人熊本大学 理事・副学長）

富山 孝治 委員（株式会社システムフォレスト 代表取締役）

吉本 陽子 委員（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員）※

木村 敬 委員／座長（熊本県副知事）

※後藤委員、吉本委員はオンラインによるリモート参加

<事務局（熊本県）>

内藤 美恵（商工労働部産業振興局長）

受島 章太郎（商工労働部産業振興局産業支援課長） ほか

【議事要旨】

### 1. 開会

#### ○事務局（熊本県）

- ・ただいまから、「第4回UXプロジェクト計画策定会議」を開催する。ご多忙のところご出席いただき感謝。
- ・本会議はこれまで3回開催してきたが、今回が最終回となる。
- ・はじめに、資料の確認をさせていただく。オンライン参加の皆様には画面共有にて進める。

[ 資料確認 ]

#### ○事務局（熊本県）

- ・議事に先立ち、熊本県副知事の木村敬よりご挨拶申し上げます。

#### ○熊本県木村副知事

- ・委員の皆様におかれては、ご多忙のところお集まりいただき感謝。オンラインでご参加の委員もよろしく願います。
- ・これまで全3回を通じて、大変有意義な意見交換をさせていただいた。

- ・ 前回は実施計画の骨子案をご議論いただいたが、今回は最終的な内容である実施計画案をご議論いただきたい。
- ・ また、今年度は計画の策定と併せて、様々なイベントを実施してきたところであり、それらの成果報告会を3月14日（月）に「UXプロジェクト DEMODAY 2022」と題して開催する予定。委員の皆様におかれては、ぜひお越しいただければ幸い。
- ・ 今年度で策定会議は終了するが、次年度以降は具体的な取組みを進めていくこととなる。これまでの議論を踏まえて、今後とも本プロジェクトへのお力添えをお願い申し上げたい。
- ・ 本日も限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただきたい。よろしくお願いいたします。

### ○事務局（熊本県）

- ・ 次に、出席委員をご紹介します。オンラインからは後藤委員、吉本委員にご参加いただいている。池野委員は遅れてのご参加となる。
- ・ これからの進行は木村座長にお願いしたい。

## 2. 議題

### ○木村座長

- ・ 早速議題に入りたい。
- ・ 皆様から忌憚のないご意見をいただくため、事務局から簡潔に説明をお願いします。

#### （1）実施計画（案）について

#### （2）今後の取組みについて

### ○事務局（熊本県）

- ・ 資料1「UXプロジェクト「基本計画・実施計画」の概要」、資料2「UXプロジェクト実施計画（案）」、資料3「令和4年度UXプロジェクトに関する主な事業の展開」、資料4「令和4年度UXプロジェクトの関連事業について」、資料5「UXプロジェクトの今後の取組み」に基づき、説明。

#### （3）意見交換

### ○木村座長

- ・ これまでの説明に対し、皆様からご意見等をいただきたい。

### ○後藤委員

- ・ 着実に進められており素晴らしい。
- ・ 計画策定時からの大きな流れを振り返ると、TSMCの件によって、元は何もないところに風を生み出す必要があったものが大変な追い風、活用しない手はない。
- ・ T社が世界レベルの視野とスピード感を示してくれている。熊本大学が非常に早いスピードでされたのは対応のよいお手本。本プロジェクトもそれにならって対応したい。
- ・ リカレント教育で県内大学とタイアップされたのはよいが、例えば南九州一円でとか、こ

こでも他県をも含む視野での取組みを期待。

- ・「県内大企業×県内外スタートアップ」の掛け合わせは非常によいが、大企業のところも「県内外」としてよく、県外企業も取り込みたい。2月8日にスタートアップの会合（くまもとベンチャーマーケット（二火会））があったが、県外の九州各県から講師を招くなど、すばらしい取組みが始まっている。
- ・今後の発展を祈っている。

#### ○事務局（熊本県）

- ・県としても、熊本大学の早い動きについていけるようにしたい。
- ・行政としてやれることは検討したいと考えており、全国の企業・支援機関とも連携していくことが重要と認識している。
- ・TSMCの件を契機に、台湾との距離も近くなるため、ライフサイエンス分野での連携も視野に、国内外含め連携を図っていきたい。
- ・引き続きご指導いただきたい。

#### ○後藤委員

- ・熊本大学のマウス研究は有名。サポイン（中小企業庁の戦略的基盤技術高度化支援事業）の栃木の件も、マウスの部分は熊本大と組んでいる。これといえば熊本だ、という強みを棚卸しして、それを前面に出していくと、広域からの参加を進められる。

#### ○富澤委員

- ・マウスは熊本大学の強み。
- ・大学との連携については、東海大学、県立大学、熊本大学の3つの大学とで連携して、DXについて一緒に教育していく予定にしている。TSMCの動きも早く、一つの大学では対応できないため、それぞれの大学の強みをもとに連携していきたい。
- ・UXプロジェクトの中でもリカレント教育、高校教育も連携していける。
- ・半導体は台湾の大学とも連携の動きを始めているところであり、国内に限らず、海外も、もちろん九州内外でも連携していきたい。

#### ○吉本委員

- ・イノベーションハブは確かに全国に多くある。
- ・スタートアップ企業はフェイストゥフェイスを重視するため、リアルな場は非常に重要。
- ・確実に熊本に人が来ることになるが、人に来てもらうには、おいしい食事は大事。特に熊本はおいしい水や豊富な農産物がある。あそこにおいしいレストランがあるから行ってみようか、というきっかけから、こんなところでスタートアップの動きをしているのか、という発見を提供されたい。ぜひ全国で話題となるような、地元食材を使ったレストランを作っていただきたい。
- ・大手企業とのコラボについては、現在ではむしろ大手企業の側が必死になってスタートア

ップを探している状況。

- ・経済産業省は大企業の優越的地位の濫用について警鐘を鳴らしているが、スタートアップ界隈では悪い噂は口コミで広がっている。むしろ最近では、スタートアップ側からみて、大企業の目線が好意的に変わってきたとの声もある。スタートアップの機動力、行動力は大企業からは大変魅力になっている。
- ・「県内企業×スタートアップ」ではなく、県外企業が県内スタートアップに注目してやってくるのを目指してもよい。海外に出て行く前に、まずは熊本に寄ってもらうきっかけをつくるのは重要。
- ・県内企業からは、こういうニーズがありますという逆提案をしてもらい、そこにソリューションを持つ、スタートアップを県外からも呼んでくるのもよい。フランスでは、大企業が課題提案をして、それに対してスタートアップが手を上げる仕組みを活用している。
- ・オープンイノベーションを本気で仕掛けていくのはよい。
- ・ライフサイエンスは多額のリスクマネーを要するため、それを後押しできるのは、リスクを取ってでも支援したい大企業。
- ・テック系は知財が重要になるため、弁理士も重要。知財保護や大学発スタートアップが大学を出たときに特許をブラッシュアップする際などに、弁理士は必要となる。ただし、企業側のマインドを持った専門家が必要。
- ・その専門家と話す際には、まだUXプロジェクトの存在を認識されていなかった。スタートアップマインドをもった専門家を巻き込んでいくのがよい。

## ○池野委員

- ・スタートアップが最も困っているのはカネ。もう一つはアイデアがマーケットニーズをつかんでいるかどうか。サービス提供者は真面目なので研究のことだけを考えてしまうが、いかにビジネスマインドに転換していくかのサポートが大事。なぜ米国VCが日本のスタートアップに投資しないのかというと、知財が整備されていないから。プラクティカルな面とマインドセットの両面から支援していく必要がある。
- ・スタートアップの主役は若い人。ただし多くの場合、両親や配偶者から反対される。スタートアップの成功確率は数%程度であるため、セーフティネットがあるかどうかは重要。日本には失敗が許されない文化、失敗して立ち上がれない文化があるが、そこにセーフティネットを張るだけで若い人は喜ぶ。
- ・今週、スーパーシティの特区に大阪府大阪市と茨城県つくば市が選定された。プラスアルファで、長野県茅野市、岡山県吉備中央町、石川県加賀市の3都市が選ばれている。これらはデジタル田園都市として通過している。それらすべての提案内容に入っているのが健康、医療、高齢化に対する仕組みづくり。そのうえで、差別化を図るには、×(かける)何かを考える必要がある。例えば、熊本の災害治水×健康のようなユニークなことを考えて、デジタル田園都市構想は地方から中央へ、地方から世界へという発想で、みんなでデジタル田園都市構想を取りに行かないか。いろんな自治体で健康について競い合い、そこにプラスして、成功例を横展開すれば日本全国が盛り上げる。コンペティションとコラボレー

ションを、UXを通じて実現できればと思う。

### ○富山委員

- ・非常に素晴らしくまとまっている。事前に質問したいと思っていたところはすべてカバーされていた。
- ・私は32歳のときに起業して、ベンチャーとしてスタートした。もともとは受託開発等をやっていたが、10年くらい前からクラウドサービスに舵を切った。やはり、ベンチャーが苦勞するのは、池野委員ご指摘のとおり、お金の問題が大きい。
- ・人吉にも若い起業家は来るが、企業誘致をした後は大学回りや金融機関回りの営業支援をしていたが、現場のニーズがあるため、そういう支援をやっていければと思う。
- ・エストニアには、Latitude 59というエキスポがあり、現地のスタートアップと意見交換して、サービスを持ってくる取組みをやっている。UXを通じて、ライフサイエンス分野のイベントの誘致などを目指してはどうか。
- ・ぜひUXが活動的に動いていることをアピールするためにも、立ち上がりのスピードを大事にしたい。
- ・インフルエンサー像はまだ迷われている印象。ペルソナがもう少しはっきりしてくると具体的に書き込めるのではないかと思う。人材のミスマッチにならないよう、フィットアンドギャップを検証しつつ、検討していただきたい。
- ・空港は熊本の中心部から遠いことがネック。場所のデメリットをどうプラスに変えていくか。飲食、宿泊など、ソフト面のサポートをしっかりとったほうがよい。
- ・これまで訪問した施設で、3Dプリンタで試作品を作って展示するインキュベーション施設があった。イノベーションハブの中で実証できるようになれば、広がりがある。

### ○田中委員

- ・後藤委員が指摘されていた点、県外の広がりが大事という指摘はごもっとも。
- ・東京や福岡と議論していても、まだUXに対する認知度は低い。ただし、UXの目指す方向性を話す共鳴される方は多い印象を受けている。
- ・今回の会議は計画策定会議だったため、UXプロジェクトのハンドルのような役割。エンジンが回るのか心配していたところ、TSMCが来て、勢いがついてきた。
- ・ライフサイエンスの期待が日毎に上がっているのを感じるし、広がり決して狭くない。半導体産業への期待もある。
- ・KMNについては、素晴らしい事例である。そういった実証モデルが日本や世界を変えていく目玉になるのではと期待している。
- ・他方で、ある程度エリアを広げないともったいない。人と人のつながり、企業と企業をつながり、それらの上手なマッチングを推進する機能になる必要がある。そして、マッチングのための場づくりがあり、具体的な取組みがあり、という形で次年度以降進められることを期待している。

- ・DXとの関わりも非常に重要。DXくまもと創生会議や、九州DX推進コンソーシアムなど、こういったところとうまく連携を取っていったほうがよい。
- ・時代がこのプロジェクトを追いかけてきた状態で、先頭に立って動かしていると自負している。熊本が始めたUXはよかった、UXとはこういうことだったんだ、と言ってもらえる立ち位置になっている。
- ・ぜひDX創生会議なども横の連携を展開するなかで、チャンスが広がっていくことを期待。次年度の具体的なアクションが実りあるものにつながってほしい。

#### ○木村座長

- ・DXはすべての基盤となるものとして、行政としてはテコ入れして取り組んでいる。DXとUXをクロスして県として取り組んでいきたい。

#### ○川畑委員

- ・実施計画、一通り読んだ。計画が策定された当初は難しい印象だったが、今回は読んでみるとスツと頭の中に入った。これまでの議論もしっかり反映いただいて、素晴らしい仕上がりになっている。まずは事務局に敬意を表したい。
- ・あとはどう運用していくか。まだ県内でもUXを知らない方が多い中で、いかにPRしていくかが課題。人によるところも大きいため、地元で強い思いを抱いているインフルエンサーを確保できれば、その方をフックにして優秀なプレイヤーを呼び込める。熊本に来るメリットやプレイヤーから差別化要素として認識してもらうための差別化戦略が必要。
- ・最初はお金かなとぼんやり思っていたが、池野委員もご指摘されており、明確になった。
- ・早めに成功事例が一つでも出てくれば、PRになると感じた。
- ・今回KPIの数字は非常に具体的なものが入っているが、どんな考え方があったのか。また、専門人材の配置については、個人と企業・団体の仕分けを確認したい。

#### ○事務局（熊本県）

- ・KPIについては、意気込みの部分もあるが、一つ一つ具体的に検討しながら、数年後に実証可能なKPIとして設定している。
- ・専門人材については、p15のロードマップにある通り、本来ならばこの段階でこういう人材で、と発表したかったが、なかなか焦って決定するよりも、腰を据えて方向性を検討しながら、来年度発掘をしっかりやっていきたい。機能面については、個人にお願いするのではなく、コンサル業者に委託する中で、少なくとも来年度はマッチング機能やコーディネーター的機能をお願いしたいと考えている。

#### ○慶児委員

- ・今回計画は出来上がったが、もちろん計画の見直しはあると思っている。TSMCが入ってきて、動きも変わってくると思っている。
- ・熊本としては理工系を目指す人材がほしい。世の中を変えていくのは理工系の学生だと思

っている。UXプロジェクトでこういう恩恵があるなど、若い人に直接伝えていくことが大事。

- ・半導体企業もそれぞれで分野が異なっている。半導体装置は日本が圧倒的に強い。半導体企業のネットワークを広げていって、九州全体としてどうやっていくかを検討するとよい。
- ・意図的に、いろんな企業や人が集まる場所をつくると、そこから自然発生的にネットワークが広がっていき、スタートアップにつながっていくのではないかな。

### ○木村座長

- ・人材育成は最大のテーマと考えている。UXをきっかけにプレーヤーが集まってくる仕掛けをしていきたい。

### ○新原委員

- ・内容は素晴らしい。
- ・私自身の日本橋での経験からしても、いろんなベンチャーや研究機関を訪問すると、池野委員がおっしゃった通り、カネが最も関心が高い事項。自社に何のメリットがあるのか、それをどう供給してくれるのか、という点を企業側は求めている。例えば、安い賃料で事務所が使えたり、コーディネーターがいる。世の中がこんなに動いているということを経験してスタートアップにメンタリングして、「こういうものを入れると、こういう企業が興味を持ってくれる」といった形で、ビジネスに誘導するメンタリング人材が重要だと認識している。
- ・ラボがほしいとの要望が多い。自社で装置を買う資金はないので、共用の装置があるシェアラボが必要。熊本に行けばシェアラボがあるとなれば、自然と人が集まってくる。
- ・2023年の3月に熊本空港に新しいターミナルが完成予定。今の仮設のターミナルは使わなくなるため、こういう施設をテクノリサーチパークと連携して、自由に行き来できるようなモビリティも導入すれば、空港とテクノリサーチパークが密接につながる。
- ・空港としてもどう整備していくかを考えていきたいが、逆に県からも、こんなものを空港で整備できないかというご提案もぜひいただきたい。
- ・TSMCの件で、プロジェクト自体が加速された。当初思っていなかったような方向に動いてきている。TSMCが来ることで、空港からどれだけ輸送できるかが、大きな課題となってきた。
- ・空港のあり姿も変わってきている。UXでいろんな方が集まってくれば、何年か前に思っていた姿とは全く違う姿になっていくのではないかな。
- ・こんな施設があれば、という話があれば、できることとできないことはあるが、ぜひ一緒にやらせていただきたい。

### ○木村座長

- ・熊本空港とテクノリサーチパークを一体的な空間にしていきたい。

### ○富澤委員

- ・実施計画ができて、具体的なことが見えるようになってきた。
- ・大学としては、大学発ベンチャーも学生がやるので、県内の大学生が空港に行って、ベンチャーやインフルエンサーに会ったり、バイトしたりして、起業家精神を実際に学ぶのがよい。ただし、市内からは少し遠いので、うまく学生が集まる場にできればよい。
- ・熊大の医学部は大学発のベンチャーを初めて輩出したところでもある。U Xでテクノロジーパークに学生や企業、インフルエンサーが集い、わいわいできる場ができれば、盛り上がり上がっていく。ぜひ協力していきたい。

### ○木村座長

- ・今後の展開について、各委員から前向きなご意見をいただいた。
- ・これまで4回の会議を通じて、大筋合意いただいたと認識しており、このような方向性でまとめさせていただきたい。
- ・最後に後藤委員から一言お願いしたい。

### ○後藤委員

- ・T社のことで内外の要人が来るのは好機。来た人に講演してもらおう手も。岡山の林原はノーベル賞級の学者を国内外から招いて社内で講演いただき「高野山の昼寝」と称していた。高僧が来る高野山では、門前の小僧さんは昼寝していても気風に触れて徳が上がる例え。
- ・東北大学が国際学会を開いたとき、一部を公開して海外学者が講演、市民は無償で参加。謝金だけ仙台市が負担、同市は支援制度を設けていた。手軽なところでは、こういう策もある。
- ・計画書の内容自体は素晴らしいが、計画書があると本日のように各委員から意見が出て、それに触発されてさらに思いつく。計画書を固定的に扱わず、これをもとに更に議論して施策を思いつく材料にする、そういう活用もできるとよい。

### ○木村座長

- ・1年間お集まりいただいた皆様に対しては、今後もプロジェクトにも参画いただく仕掛けを考えていきたい。今後もぜひ積極的に関わっていただいて、一緒に頑張っていきたい。
- ・これまで活発にご議論いただき感謝。
- ・それでは意見交換はこれまでとし、事務局にお返しする。

## 3. 閉会

### ○事務局（熊本県）

- ・本日の議論の内容を踏まえて、具体的な取組みを進めていきたい。
- ・U Xプロジェクトについては、各委員ご指摘のとおり、まだ知名度がない。縦割りだとの意見もdテイルが、「これはU Xで解決する」という具合に、産業振興部署も前面に出ていきたいと考えている。



- ・人材育成については、半導体の人材不足への対応として、ライフサイエンスの大学を集めて、場を設けられれば、どういう人材を求めているのか確認できると考えている。
- ・実施計画については、今年度内に公表することとしているので、改めて案内したい。
- ・本会議は最終回となったが、また都度お会いして、ご意見を賜りたい。
- ・これをもって、本日の策定会議を終了とする。

(以上)